

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
201
2022.7
学びから行動へ、行動から学びへの循環



「せきがねつじ温泉まつり」の準備完了 「養生の郷」メンバー

特集

まちをまるごと楽しむ 「しかけ」をつくる

NPO法人 養生の郷（倉吉市関金町）

- 04 私たちの活動をご紹介します！
こだいぢ踊り保存会（江府町）
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
（7・8月）
- 21 ふるさと再発見生涯学習講座（自然）の
開催報告
- 22 とっとり県民カレッジ講座（市町村連携）
- 23 「未来を“つくる”美術館」 鳥取県立美術館
- 25 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
- 27 みてみて♪こんなしとするで～



地元の鴨川中学校の生徒も
清掃活動に参加しました！



清掃活動を終え、山頂で記念撮影

まちをまるごと楽しむ「しかけ」をつくる

～ NPO 法人 ようじょう さと 養生の郷～

関金の「よさ」と「らしさ」を残して地域を振興していきたい気持ちから、地元の仲間と立ち上げた「NPO 法人 養生の郷」。まちも住民も元気になる活動について、副理事長の増田英之さんと事務局の牧野美穂子さんにお話を伺いました。

「らしさ」がなくなる危機感から

養生の郷は倉吉市関金町で活動する NPO 法人です。この法人の事務所は「せきがね湯命館」に隣接し、役員20名を含む52の団体・個人会員が、関金の地域活性化に取り組んでいます。

養生の郷ができたのは、平成17年の平成の大合併がきっかけです。関金町と倉吉市が合併し、このままでは関金のよさが埋もれてしまうのではないかと、この危機感から当時の町長が理事長となり団体を立ち上げました。「関金らしさを残したい。関金をなくしちゃいけない！という想いが強かったですね」とふりかえるのは、関金で生まれ育ち、設立当初から養生の郷で活動する増田さん。関金の観光協会や商工会も倉吉市と一っしょになる中で、地域の「つながり」が薄れていくことを恐れた増田さんは、地元商工会の仲間とともに「養生の郷」の活動をはじめました。

関金の日常が「とびきりの体験」に

当初の活動は、放置竹林の整備、薬膳料理の普及、手作り甲冑教室と倉吉里見時代行列、民泊などのグリーンツーリズムが中心でした。「近くのやまもり温泉キャンプ場に放置竹林がたくさんあったので、この問題を学んだり、タケノコ掘りや竹の器をつくる体験をしたり」と話す牧野さん。関金の自然を活かして今でいうSDGsにもつながる学びと体験をセットにした活動をしてきました。「民泊は、当時としては先駆けでしたね。県外で民泊をしているところに研修に行ったり、受け入れのために協議会を立ち上げたり」とも。設立当初から続く民泊事業は、今では、養生の郷が協議会事務局となり就学旅行の受け入れを担当しています。

修学旅行は、主に関西の中学生を受け入れます。約50軒が民泊家庭に登録し、コロナ前は、年間約10校

魅力いっぱい！
自然と歴史あふれるまち
— 関金 —



関金温泉は、三朝温泉と同じラジウム温泉。ラジウム含有量は三朝に次いでなんと世界2位！実は隠れた名湯。また、里見八犬伝の歴史が残る地で、最近では星空観察スポットとしても県に登録されています。

1,500名もの生徒が関金を訪れました。関金では、牛の世話や田植え、餅つきなどを体験し、農家のおじいさんおばあさんと交流するなど、生徒たちは関金だからこぞできる「とびきりの体験」をします。食事は民泊受け入れ家族と一緒に作って食べ、お風呂は関金温泉「せきがね湯命館」で一緒に入ることも。住民の方も生徒たちとの出会いを楽しみにしています。

アイデアで新しいことにも挑戦！

現在の活動は、関金温泉まつりなど湯命館に関することが中心です。この温泉まつりは、戦前からある祭りで、もともとは「せきがねつつじ温泉まつり」という名で、春に開催されていました。去年はコロナの影響で開催できなかったため、秋に「関金温泉まつり」と名を変え、野菜や焼き芋の販売、フリーマーケットなどを新たに企画しました。「春になると亀井公園や温泉街に灯籠が灯るのが関金の人意識にはあって。去年はコロナのため全く灯籠をつるさなかったの、今年は亀井公園だけでもと準備をしています」と意気込む増田さん。

その他、令和元年に関金が県の星空保全地域に指定されたこともあり、去年は新たに星空ウォークと星空観察会を開催。「一回来られてすごく気に入っていただいた方もいて、リピーターも多いです。何度来ても楽しめるように、今年は場所や内容を変えようと考えています」と増田さん。

さらに、旧国鉄倉吉線廃線跡は全国から観光客が訪れます。養生の郷が泰久寺駅跡に硬券が入ったガチャガチャを設置。「ガチャガチャは200円です。中に、湯命館で使える100円の割引券を入れていて。これは、関金の温泉街まで足をはこんでもらおうという私たちのアイデアです」とにっこり。「それから、湯命館で電動自転車のレンタサイクルもはじめました。ゆっくり関金のまちをめぐってほしいですね。散策マップも完成したのでまち歩きに活用してもらえれば」と関金をまるごと楽しむしかけを話します。

関金町内の「おすすめ」をギュッとつめこんだ散策マップ

のんびり散策 まるごとガイド

牧野さんが1年間かけてあちこちで写真をとり、自転車で時間を突測し、オススメ周遊コースを考えた力作です！



普通のツツジは、5月～6月に花が咲きますが、ミツバツツジは4月に咲きます。きれいに咲くように、昨年、養生の郷で剪定するなど手入れをしました。



亀井公園のミツバツツジ



昨年初めて開催した「星空観察会」

「日本で一番美しい廃線跡」と テレビでも紹介された人気のスポット



旧国鉄倉吉線廃線跡

子どもたちと地域の人がつながるのが喜び

これまで活動してきてうれしかったことを聞くと、「星空観察会に参加した子どもさんからイラストつきで手紙をもらったこと」と牧野さん。「子どもさんが喜んでくれるとやっぱりうれしいですね。それと、公民館にも協力いただき地元の中学生と亀井公園にツツジを植樹したときに、中学生と公民館の人が世代をこえて交流したこともよかったですね。子どもたちと地域の人と一緒に活動できるのは、養生の郷の強み」と、つながりができることに喜びを感じています。

また、関金には県立農業大学校があり、学生は地域でボランティアをすると授業の単位になるそうです。春の「せきがねつつじ温泉まつり」では農大生発案の“梨の袋がけゲーム”を担当。去年の関金温泉まつりのときには、ゲームコーナーのほかに、農産物も販売しました。秋には、倉吉の里見まつりの時代行列にも参加します。「地域の農大という感じで本当にありがたいです。若い人がくると、みんなが元気になりますね」と牧野さんは笑顔で話します。

地域の人楽しく元気に暮らすために

今年特に力をいれたいことは、昨年大好評だった星空観察会と亀井公園のツツジがきれいに咲くように公園の整備をすることだそうです。

「もちろん、観光客にたくさん関金に来てほしいですが、それと同時に関金の人々が地域で楽しく元気に暮らしていけるようなことを一緒にしていきたいですね。今ね、コミュニティセンターや地区振興協議会ともコラボしていろいろやっています。やっぱり地域の人に応援してもらいたいし、協力がないとできないので。本当にみんな仲がいいんですよ。いろいろな団体と連携しながら、関金もこんないいところがあるんだっていうのを伝えていきたいですね」と未来を見つめます。



関金温泉まつりで農大生が農産物を販売



湯命館に隣接する建物内に設置された、「里見」の人形を前に
牧野さん(左)と増田さん(右)

牧野美穂子さんからひとこと

養生の郷の活動には、10年くらい関わっています。私はもともと県外出身で、関金にきて何に感動したかっていうと、とにかく水がきれいでびっくりして、透明すぎるのがすごく不思議だったので、この水はどこからくるのだろうかとかと水路をずっとたどっていったことがあります(笑)。おさびがができるくらいですからね。

私の一番のおすすめスポットは、「木の実の里」。実のなる木が植わっていて、季節ごとにいろんな食べられる実がなるんですよ。夏はクワかタモカブトムシもいっぱいいるし、お金を使わず、子どもといっしょに一日遊べるスポットです！

増田英えさんからひとこと

生まれも育ちも関金で、大学からは東京です。映画会社に10年ほど勤め、家業を継ぐために戻ってきました。当時、商工会の青年部の部長をやっていた、「籠かきレース」の活動を15年くらい続けていま

した。地域で商売をしているから、やっぱりこの地域が元気じゃないと商売にも影響がでるし、商工会の仲間と一緒に地域を盛り上げようと「養生の郷」の活動をスタート。仲間とともに、ずっと活動を続けてきました。1回東京に行って帰ってきたからこそ、地元の下さがわかりますね。

問合せ先

養生の郷

〒682-0411 倉吉市関金町関金宿1139
TEL : 0858-45-3988 FAX : 050-3488-5653
WEB サイト : <http://youjyounosato.jp.org/>
Eメール : youjyou@sekigane.com



あなたも一緒に活動しませんか？東部・西部の方もOK！いつでも参加可能です

私たちの活動を紹介します

江府町

こだいぢ踊り保存会

<会長> 見山 収みやま おさむさん

<連絡先> TEL 0859-75-6007
(こだいぢ踊り保存会事務局)

<設立年> 平成 28 年

<会員数> 30 名 (令和 3 年 7 月時点)

昭和 49 年 10 月 県指定無形民俗文化財指定



メンバーは元役場職員、地元の踊り愛好家等さまざま

500 年の伝統を受け継ぎ今に

戦国時代、江美城は蜂塚氏はちづか一門の居城でした。盆の 17 日の夜には城門を開放し、町民や農民たちに自由に入出りを許して供養と豊作を祈る踊りと力くらの「力角すもろ」で夜を明かすことを常としていました。

やがて毛利氏に攻められ落城してしまいます。その後も城下の人々は昔を偲び、毎年盆の 17 日の夜には供養として踊り明かしました。このことが「江尾こだいぢ踊り」として今に伝わっています。

現在は、江尾を中心に各集落で踊られており、特に盆の 17 日は「江尾十七夜」として、岡山、島根までその名を広めて一大行事となり、踊りを中心としたイベントも催され、賑わいをみせています。

次世代へつなげる活動

昭和 40 年頃有志会を発足後、昭和 49 年には県指定無形民俗文化財に指定されました。その後、同好会が発足し保存会へと形を変え、活動を続けてきました。活動内容としては、毎年夏に練習会を開いたり、子どもたちへの指導、後継者の育成に力を入れています。また県内外の芸能イベントに出演し PR もしています。

課題として、会員の高齢化に直面しています。若い世代の会員を増やし、踊りの磨き上げや見せ方も工夫して、より洗練された演舞ができるよう精進したいと思います。



江尾十七夜は
こだいぢ踊りで
最高潮を迎える!



令和 2 年・3 年度はコロナ禍で江尾十七夜は中止になりましたが、こだいぢ踊りだけは踊ることができました。500 年の伝統を絶やさぬよう、先人の思いを大切に、その時代に合ったやり方で無理なく活動を継続していこうと思います。

どんな状況下でも、つないでいける伝統があるというのは町の誇りです。

今年は 8 月 17 日の江尾十七夜で、お客様と一緒に踊れるよう願っています。